

## 土の城が面白い 山城の防御システム



中世・戦国時代の城の多くは小高い山を削平して、郭群を形成した山城であった。その後、江戸期の城の多くは、平地に石垣を高く築き、周囲は深い堀（箱堀）にして水を満たし敵襲からの防御の要とした。現存する城郭は芸術性に優れた雄姿を誇る。一方、山城の城跡からは、戦いの攻防に実用的な素朴な工夫が多々見て取れる。戦国時代の城が備えた防衛システムの数々をマンガチックに記載してみた。

### 【参考文献 他】

- ①本郷町観光協会理事 島田 博司氏  
山城の防御システム; 研究資料
- ②本郷町観光協会理事 戸石川 和子氏  
山城の防御システム; イラスト提供
- ③本郷町郷土史家 兼保 義之氏 監修

**祝！新高山城跡「純日本100名城」平成29年4月6日認定**

**【認定記念事業】 協力制作 三原市本郷地域支援員 本郷町観光協会**

三原市 本郷町観光協会  
平成30年3月発行



**ガイド案内連絡先**  
三原市本郷南5丁目26-11  
Tel. 0848-86-5717  
9時～12時・平日

## ☆土の城が面白い！

**城とは、何でしょうか？ それは、敵の攻撃を防ぐ施設です。**

お城といえば、天守を備えたお城をイメージされる方もおられるかと思いますが。日本には、3万とも4万ともいわれる、城跡が存在します。その多くが、天守の無い、自然にある山を切り盛りして築かれた山城です。

城という漢字は土から成ると書きます。土を掘って堀をつくり、土を盛って土塁をつくっています。この様な土の城は、素人でも、どのようにして造ったか当時の苦勞が想像できます。

山城の高さを表すのによく使われる言葉は？ 比高という言葉がよく使われます。比高とは、山の高さと、麓の高さの差を言います。小早川氏4代～17代当主が約350年間本城とした、高山は、約190mの山です。本郷駅周辺は海拔約10mぐらいですから、高山城は、比高約180mの山城ということになります。

**山城は、なにげなく登れば、ただの山ですが、知識をもって登れば、実に面白い山です。**



### 土を掘る

山城イメージ図参照 ①掘切 ②豎堀 ③横堀



### 土を削る

山城イメージ図参照 ④切岸



### その他

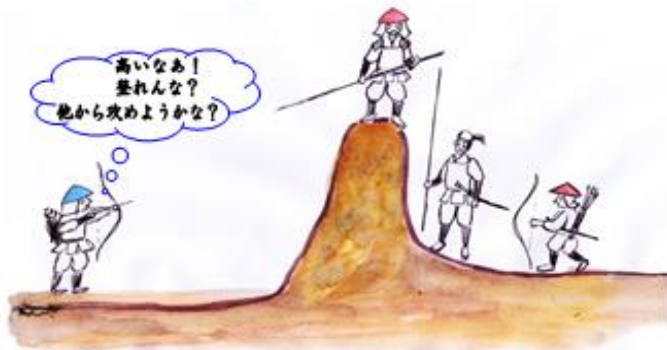
逆茂木(さかもぎ)  
臨戦時に、防御の手薄なところに設置



切り倒した木の枝が敵側に向くように並べた障害物

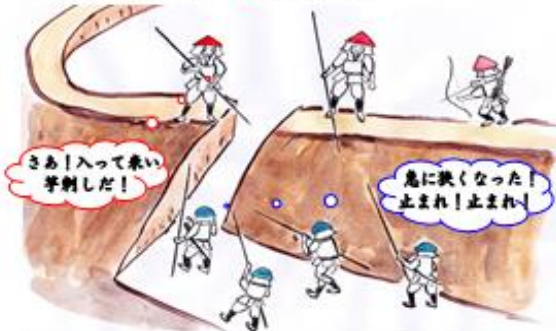
### 土を盛り

山城イメージ図参照 ⑤土塁



### 出入り口

山城イメージ図参照 ⑥虎口(こくち)



出入り口を広くすると、多くの敵から攻撃を受けるので、小さくしていることから「小口(こくち)」と呼ばれたのが「虎口」の原語

### 今昔

400年~500年前のイメージ

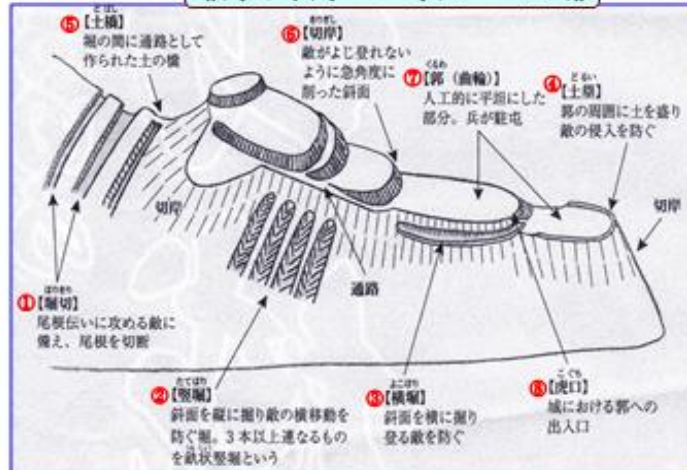


### 土を残す

山城イメージ図参照 ⑦土橋



### 《戦国時代の山城イメージ図》



山城の多くは400年~500年は経っているので土塁は崩れ、空堀は埋まっています。土塁は今よりもっと高く、空堀はもっと深く狭く掘られていた。当時の山城を想像しながら見学されると、土の城の面白さが分かると思います。

### 井楼櫓(せいろうやぐら)

櫓は「矢敷」と言われていたので、武器庫の意味があるが、また「矢座」とも言われていたと言う説もある。矢を射るための場所と言う意味があるので吹きさらしの、井型の建物も櫓と呼ばれたと思われる。

普段は見張りの兵がいて... 敵が攻めてきたら、弓を射る

